

令和元年度 年度末自己評価書

愛南町立長月小学校

重点目標	評価項目	評価指標及び目標値(期待される姿)	評定	評価規準 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満 学校による考察(◇) 改善方策(◆)				アンケート平均値(100%満点)							
				評価資料	個別評価	肯定率 4+3	4	3	2	1	?				
特色ある学校づくり	ふるさと学習	地域の教育力や伝統・文化を生かしながら、人的・物的環境を活用したふるさと学習を推進する。	A	◇地域の方から、田植えや野菜の苗の植え付けや手入れの仕方、収穫について直接御指導いただき、それを生かして田畑で作物を意欲的に育てることができた。更に、収穫した野菜を活用してのカレー作りやピザづくりを通して、収穫の喜びを感じるとともに、自分たちが生きていくために食物の命をいただいていることを学ぶことができた。生け花教室や食育ダンス、栄養教諭による給食指導、苔玉づくり等、様々な活動にも地域の方の御指導をいただき、充実した学びができたことが、高評価につながったと考えられる。 ◆2学期からは、活動後の振り返りをもとに児童が保護者に伝え、それに対する感想を学校に返していただいたり、把握できた内容を学校だより等に掲載したりしながら、人との関わりの楽しさを実感できるような取組を行い、保護者や地域との更なる連携を図り、より充実したふるさと学習の推進につなげたい。	教職員1	A	100	57	43						
		目標値:教職員・児童・保護者の90%以上が肯定 地域人材を取り入れた回数 学期に5回以上	A	◇食育推進事業や地域合同避難訓練等、地域人材を積極的に取り入れ、学校、家庭、地域と一緒に活動を実施したものにすることができた。そのことが、教職員、児童、保護者の高評価につながったと考えられる。 ◆今後は、食育をベースとして残しながら、歴史や芸術、文化面等他の分野からの地域人材を取り入れた授業や行事、集会を行い、更に充実したふるさと学習を推進していく。	児童1	A	96	74	22	4					
確かな学力の定着と向上	主体的・対話的な学習の実践	やる気を持って粘り強く学習に取り組む児童が育っている。	A	◇主体的に学習に取り組むことができるように、子どもたちが考えたいくなるようなめあてを設定したり、発問を工夫したりした。また、ペアやグループで話し合う活動も取り入れた。このような取組を通して、少しずつ主体的に学習に取り組む、粘り強く学習に取り組むことができるようになってきている。しかし、教職員のアンケート結果から、さらに主体的に学習に取り組むことができるように授業を工夫する必要があると感じる。 ◆来年度からの新学習指導要領完全実施に向けて、研究会や自己研修を通して研修を深め、さらに主体的・対話的な学習に向けての授業改善を行う。	教職員2	B	86	29	57	14					
		目標値:教職員・児童・保護者の90%以上が肯定	B	◇2学期も、子どもたちが主体的に取り組むことができるための発問の工夫をしたり、ペアやグループ学習を取り入れた。また、聞き手を意識した発表の場も工夫して、人前でも落ち着いて話すことができるようになってきているところから、教職員の評価が上がったと考えられる。保護者の評価が低下したのは、家庭学習において、粘り強く最後までやり抜くという点において、不十分と捉えられたのではないかと考えられる。 ◆保護者に見ていただくポイントを明確にした授業参観を行い、子ども達が主体的に学んでいることをしっかりと認識していただくようにする。家庭学習については、今まで以上に児童の実態と目指すべき目標について保護者と共有し、最後までやり抜くことができるように支援していくとともに、計画帳や学級通信等で、できるようになったことをこまめに保護者に連絡し、児童と保護者のモチベーションアップにつなげていく。	児童2	A	100	40	60						
	基礎学力の定着	プリントの活用や業間を有効活用し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図っている。	B	◇週に2回、元気タイムに学習の時間をとった。ドリルやプリント等を用いて、読み・書き・計算の力が身に付くよう、取り組んだ。学担以外の教員も指導に入り、個に応じた指導を行うことができた。そのため、少しずつ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができている。しかし、単元別テストの結果から、学力の個人差が大きく、基礎・基本が定着していない児童がいることも分かる。 ◆単元テストで平均正答率が80パーセント満たない児童に対して、個別指導ができる体制にしたり、個に応じた宿題を出したりして、基礎・基本の定着(特に漢字の読み書きと文章の読解力)を図る。	児童3	A	96	48	48	4					
		目標値:児童・保護者の90%以上が肯定 国語科と算数科の単元テストの平均正答率80%以上の個人が8割以上	B	◇元気タイムでの学習の時間には、漢字の読み書きや文章の読解力向上を目指してプリント学習を行った結果、少しずつ漢字の読み書きの力が定着しつつある。しかし、十分な時間確保ができず、文章の読解力等、定着が不十分な児童もいる。 ◆2学期は、個別指導の時間確保が難しく、十分な補充学習を行うことができなかった。3学期は、一人一人の実態に応じた宿題を出し、基礎学力の定着を図る。元気タイムの時間や放課後の時間帯を活用し、支援の必要な児童に対して、全校体制でその児童の進度に合った個別指導を行い、更なる基礎基本の徹底を図る。	児童9	A	96	61	35	4					
読書活動の充実	幅広いジャンルの本に親しむよう、読書活動の充実と工夫を図っている。	B	◇新しい図書は、幅広いジャンルの本を購入し、児童がよく活用しているミニ図書館に置いたため、様々な本に親しむ児童が増えたと考えられる。 ◆ミニ図書館や学級文庫の本を読んでいる児童が多いため、図書室にある図書システムの活用が十分できていない。1学期間で児童一人当たりの本の貸出冊数は、9.7冊でありたくさん借りているとは言いがたい。児童が読んでいる本をすべて把握できていない可能性もある。そのため、保護者の評価が下がったのではないかと考えられる。2学期からは、2週間に一度、ファミリー読書を推奨し、親子で幅広い本に親しめる時間の確保を行っていきたい。また、図書館の改造を行い、児童が更に図書館に足を運びたいような環境づくりを行っていく。	児童4	A	92	48	44	8						
	目標値:児童・保護者の90%が肯定 図書システムを活用したジャンル別読書量	B	◇夏休み中に、図書館担当教諭が中心となり、図書支援員や複式支援員、特別教育支援員と連携して、だれもが足を運びたいような環境づくりがなされた。時間があれば、図書館に行き、読書にいきなり親しむ児童の姿が見ることが増えてきた。定期的な図書支援員や教職員による読み聞かせや毎日の朝読書は、話し声が一切ない状態でおこなわれることが多くなり、読書習慣が定着してきた。しかし、これらの様子を見る機会や、児童がどんな本を読んでいるのかを知る機会の不足が、保護者の評価が低い原因ではないかと考えられる。 ◆児童が、幅広いジャンルの本に親しんでいることを知らせる機会を設け、保護者に児童の頑張りをしっかりと伝えていく。	保護者5	C	79	40	39	14	4					
豊かな心を育てる教育の推進	あいさつ・返事運動の推進	家庭・地域との連携により「明るく丁寧なあいさつ・返事」ができる児童が育っている。	A	◇「あいさつや返事ができている」と児童・保護者・地域のすべてが回答している。6年生を中心に気持ちのよいあいさつができているという評価を地域の方がおっしゃってくれている。最高学年が中心となって、あいさつや返事を頑張っているため、下級生もあいさつや返事をしなければならないという意識が芽生えていると考えられる。しかし、教職員は、挨拶ができる児童とできない児童の差が大きく、返事についてはまだまだ不十分な状態であるという認識をしている。 ◆相手を見て、しっかりと挨拶ができるように、特に登下校時の機会を利用し、継続して教職員が範を示していく。その際、同じ人に2回目に会った場合は、会釈をするように指導していく。また、返事については、教育活動の中で、根気強く、できるように指導していく。その中で、挨拶や返事をする事で、コミュニケーション力が向上したり、お互いが気持ちよく過ごすことができるようになることにつながっていくことを理解させていく。	児童5	A	96	66	30	4					
		目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定	A	◇集団登校時、通学途中では、最高学年が中心となって、気持ちのよいあいさつができている。このことが、地域の評価を高めている。しかしその日によって違ったり、できる子としない子に分かれてきているという地域の意見や、A評価ではあるが、児童も保護者も1学期と比べて評価が下がってきていることから、挨拶が十分満足できる状態ではないと考えられる。返事についても、まだまだ不十分な状態であるという認識をしている。 ◆よいあいさつとはどんなものか、よい返事とはどんなものか学ぶ機会を設け、理解させた上で、自分の目標を持って取り組めるようにする。また、スマイルあいさつデーの取組を学校だよりで紹介し、地域の方への啓発を図る。また、1月は挨拶について、2月は返事について、全校で重点的に取り組んでいく。	保護者6	A	96	66	30	4					
					地域1	A	100	75	25						
					児童5	A	96	53	43	4					
					保護者6	A	95	32	63	5					
					地域1	A	100	82	18						

生命尊重	食育推進事業を中心とした活動や学習、道徳科において、生命尊重について積極的な指導を図っている。	A	◇各学級の栽培活動や、命に関する体験活動を積極的に行うことができた。また、その体験活動と関連させた授業も行うことができた。そのため、命を大切にし、命に感謝していたくという心情が育ってきたように思う。 ◆体験活動や授業で行った内容や、その時に感じた思い等を、児童が保護者に伝え、保護者の感想を学校に返していただく取組や、出していただいた感想を学校だより等で紹介することで、更なる家庭や地域の啓発につなげていきたい。	教職員3 教職員3 児童6 保護者7	A A A B	100 100 100 87	57 57 83 48	43 43 17 39						
	目標値：教職員・児童・保護者の90%以上が肯定	A	◇2年間の食育推進事業のまとめをしていく中で、子どもたちは、食べることで命をいただいていること、また、それらの食材を作るために、たくさんの人の工夫と努力があることをしっかりと感じる事ができた。これらの学びを、子どもたちが家で伝えたり、ケーブルテレビや新聞、広報、ホームページ、学校だより等で見ていただいたことにより、保護者の評価がアップしたと考えられる。 ◆今後も、持続可能な取組は教育課程の中に取り入れ、生命尊重の学びを継続していきたい。	教職員3 児童6 保護者7	A A A	100 96 100	100 79 42			17 4				
豊かな心を育てる教育の推進	豊かな体験活動を通し、自他のよさに気づき、認め合い支え合う集団づくりを行っている。	A	◇今年度より始めた児童会の取組「全校会議」で学校でのよりよい過ごし方について全校児童で話し合う機会を設けたことや、全校での俳句集会実施により、自分の意見を言ったり友達の意見を認めたりしながらよりよい集団づくりに向かうことができた。縦割り班活動や全校遊びを6年生が中心となり、みんなで楽しく行うことができた。 ◆活動中には、トラブルはある。どんなに小さなことでも早期発見、早期解決をして、よりよい集団を持続させたい。	教職員6 児童7 児童12 保護者8	A A A A	100 96 100 100	63 70 70 43	37 26 30 57			4			
	目標値：教職員・児童・保護者の90%以上が肯定	B	◇2学期も引き続き、全校会議の場において、学校での充実した過ごし方について、意見交流をしながらよりよい集団づくりに向かおうと努力することができた。俳句集会も、全校が自分の思いを伝え合い、聞き合う中でお互いの考えを理解し合う場となった。このことが、自主企画の昼休みの全校遊びでの楽しみにつながっていると考えられる。ただ、学校が楽しくない、あまり楽しくないと答えている児童もあり、友達に自分の思いを伝え合ったり聞き合ったりすることがうまくできていない状況もうかがえる。 ◆学校が楽しくない、あまり楽しくないと答えている児童については、いじめられている訳ではなく、自分自身の自己有用観や自己肯定感が低いことが要因として考えられる。アンケートで気になる評価をした場合には、どうしてそういう評価なのかを聞き取ったり、教師から評価を伝えたりしながら、その児童が客観的な評価ができるように支援していく。また引き続き、教職員が対話する機会を積極的に確保し、その子の心に寄り添いながら、仲間づくりにつなげていく。また、活動の中でトラブルを学びの機会と捉え、どうしたいのか、どうすればよいのか、自分たちで解決していける力を養っていく。	教職員6 児童7 児童12 保護者8	A A B B	100 100 87 95	29 52 65 37	71 48 22 58			9 4			
特別支援教育の推進	児童やその保護者のニーズに応じた合理的配慮の提供を行い、生活や学習上の困難の克服を目指した指導・支援に努めている。	A	◇通級指導教室や南えひめ病院等の関係諸機関と連携して、児童の実態に即したニーズを提供できたことや、一人一人を見つめる会や個別の指導計画等で、教職員全体で共通理解を図り、実践することができたことが高評価につながったと考えられる。 ◆これからも、一人一人を大切に学級経営を行うとともに、支援を必要とする児童について、関係諸機関との連携を密にするとともに、全教職員で共通理解を図り、共通実践していくことで、更に充実した指導・支援を継続していく。	教職員4 児童8 保護者9	A A A	100 100 100	43 78 48	57 22 52						
	目標値：教職員・児童・保護者の90%が肯定	A	◇2学期も、関係機関と連携して実態に即したニーズを提供できたことや、一人一人を見つめる会や職朝において教職員全体で共通理解を図り、実践したことが、高評価につながったと考えられる。ただ、児童と保護者の評価は、前期と比べ、下がっている。 ◆学級や学校において実践している一人一人を大切に取組を通信等で保護者に伝える。また、今後とも、ユニバーサルデザインの学級経営を行い、必要な支援が十分に行き届くようにするとともに、関係機関との連携や全教職員での共通理解、共通実践をし、更に充実した指導・支援を継続と児童の成長を記録し、次年度につなげていく。	教職員4 児童8 保護者9	A A A	100 96 90	43 79 58	57 17 32			4 10			
児童理解の充実	好ましい人間関係の構築と教育相談の充実を図り、いじめ・不登校等の未然防止・早期発見・早期対応に努めている。	C	◇道徳や授業や学級活動の充実や日々の指導により、重大ないじめは起こっていないと考えられる。しかし、保護者の中には、「仲間外れはあると思う」と答えられた方がおり、それがいじめや不登校につながる可能性も十分考えられる。 ◆これまで以上に道徳や学級活動の授業の充実を行うと共に、休み時間の子どもの観察も全教職員体制で行う。そして、いじめや不登校につながりそうな事案には、早期対応をしていく。また、子ども一人一人と対話をする機会を積極的に確保していき、子どもの心に寄り添いながら、全教職員で情報共有をしながら、児童を育てていく。	教職員5 児童10 保護者10 地域2	A A B D	100 100 91 56	50 87 91 56	50 13						44
	目標値：教職員・児童・保護者・地域の100%が肯定	B	◇一人一人を見つめる会での情報交換、毎月1回の児童とお話タイム、なかよしアンケート等で子どもたちの実態把握を行い、教職員間で情報交換をしながら、いじめや不登校等の未然防止に努めた。 ◆引き続き道徳や学級活動の授業の充実を図っていく中で、相手の気持ちを想像する力を育て、友達がいやだということほしくないという心情を高め、実践力につなげていく。もしトラブルが起こった時には、しっかり話を聞き、きめ細やかな対応をしていく。友達との望ましい関わり方についても様々な場面で考えさせ、全ての児童が楽しく学校に通えるように全教職員で情報共有をしながら、児童を育てていくとともに、児童の成長を記録し、次年度へつなげていく。	教職員5 児童10 保護者10 地域2	A B B A	100 96 95 100	43 87 90 59	57 9 5 5						41
食育の推進	学校・家庭・地域が連携し、望ましい食生活の確立に努めている。	B	◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることです「いただきます」「ごちそうさま」の合掌の言葉に気持ちが込められている。 ◆2学期に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。	教職員7 児童11 保護者11 地域3	B A A B	88 92 96 87	38 70 39 74	50 22 57 13	12 4 4					13
	目標値：教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定	B	◇動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合うことで、食事に対するマナー向上へつながりつつある。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と共に、作ってくださる方へ感謝の気持ちも更に高まった。 ◆今後も引き続き、命をいただくことと作ってくださった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に親子給食試食会を実施し、家庭の協力をいただきながら、マナーアップにつなげていくきっかけづくりをする。	教職員7 児童11 保護者11 地域3	B A A A	86 92 95 100	29 75 16 82	57 17 79 18	14 4 5					
健康教育の推進	教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、えひめITスタジアムへの参加により、体力・運動能力の向上に努めている。	A	◇児童の体力や熱中症等を考慮しながら、教科体育や朝マラソン、放課後の水泳練習等により、体力づくりができた。また「えひめITスタジアム」の「8の字ジャンプ」に挑戦し、登録した。新体力テストのパーフェクト自己新記録賞は4人だったが、昨年度と比較して全児童が全種目の75%は記録を伸ばしている。 ◆2学期も継続して、教科体育の中でしっかりと体力づくりを行っていく。合わせて運動会練習、朝マラソン、放課後の陸上練習等で更なる体力づくりを行い、運動会や陸上大会、マラソン大会での自己記録更新につなげていく。体育的行事の後には、保護者や地域の方へアンケートや感想文をお願いし、それを次回の取組に生かすようにしていく。暑い日がいっぱい続き、熱中症には気を付けたいが、根気強く練習に取り組む態度も育てたい。	児童13 保護者12 地域4	A A A	100 100 94	83 43 81	17 57 13						6
	目標値：児童・保護者・地域の90%以上が肯定 自己新記録賞(前年度との比較)	A	◇2学期も継続して、教科体育をはじめ、運動会練習、朝マラソンやなわとび、放課後の陸上練習等で体力づくりを行った。運動会や陸上大会、親子マラソン大会等で地域や保護者にも練習の成果を見ていただく機会がたくさんあったため、子どもたちが体力づくりに取り組んでいることを啓発することもできた。 ◆普段からの運動経験が少ないせいか、運動を苦手としていたりしんどいことを嫌う児童もいる。運動の楽しさを味わうことができるように工夫したり、根気強く取り組むことができる態度を育てたりできるよう掛けて指導をしていきたい。	児童13 保護者12 地域4	A A A	96 95 94	83 42 76	13 53 18	4					6
健康な生活習慣の確立	早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。	B	◇ほとんどの児童に朝食の習慣は身に付いているが、中学年おいての就寝起床時間の徹底ができていない。児童の評価は高いが、保護者は26%が身に付いていないと答えている。起床が遅いと身だしなみの乱れや朝食が食べられない、気分不良などの症状に出ている傾向がある。 ◆年齢に応じた睡眠時間の確保が心身の成長に影響していることを、機会を捉えて児童に全体指導をしていく。家庭の事情で夕食が遅くなったり就寝時刻が遅くなってしまう場合もあるので、しんどい中でも一生懸命目標を達成しようとしていく児童には共感するとともに、個別に懇談会等で保護者に協力依頼をする。	児童14 保護者13	A C	96 74	66 31	30 43			4			
	目標値：児童・保護者の90%以上が肯定 健康観察結果	B	◇定期的な保健だよりや強調月間での全校体制での取組により、健康な生活習慣についての児童の意識が向上した。また、月末に行った衛生チェックをもとに保護者と地道にメッセージ交換等を行ったことが、保護者の評価アップにつながったと考えられる。ほとんどの児童に朝食の習慣は身に付いている。しかし、家庭の事情で朝食が食べられなかったり、就寝時刻が遅くなったりする場合があった。 ◆今後も引き続き健康な生活習慣について、保健だより等で啓発するとともに、自分のできる方法で目標達成に向けて努力している児童には共感するとともに、個別の懇談会等で保護者に協力を依頼する。	児童14 保護者13	A B	91 89	65 26	26 63	9					11

安全・安心な学校づくりの推進	安全・防災教育の充実	<p>防犯・防災・交通安全等に関する実践的な訓練を通して、危機管理意識の向上を図り、自らの安全確保のために主体的に行動する態度が育っている。</p>	A	<p>◇未告知の避難訓練の実施や、避難訓練の様子を見て、避難の仕方や避難場所について専門的な立場から具体的なアドバイスをいただけたことが高評価につながったと考えられる。 ◆機会を捉えて、学校での訓練の様子を子どもから保護者へ伝え、それについての感想をいただくことで、学校の取組を知っていただく。また、2学期は、保育所や地域の方々と一緒に避難訓練を行い、自分の命は自分で守る意識の向上を図るとともに、教職員の危機管理意識を更に高める研修を実施していく。</p>	教職員8	A	100	43	57			
		<p>目標値:教職員・児童・保護者・地域の90%以上が肯定</p>	A	<p>◇学校での避難訓練の様子を子どもから保護者に伝え、それについて感想をいただくことで、学校の取組を知っていただけたことと、学校運営協議会で協議し、初めて行った地域合同避難訓練が、保護者や地域の評価の向上につながったと考えられる。地域全体で、防災対策課や消防署、消防団等の関係機関と連携をとりながら実践できたことは、大変意義深いと思われる。 ◆今後も、様々な場面を想定した避難訓練繰り返しを行い、児童に自分の命を自分で守るための実践力を身に付けさせたり、教職員の危機管理意識を高めたりする取組を行っていく。また、学校運営協議会が中心となって、地域全体の更なる防災意識の高揚を図るための訓練も実施していく。道徳や学級活動の時間に、それぞれの学年でインターネットの利用等についての指導の時間を設け、実施し、その内容について、学級通信や学級PTA等で保護者に伝える。</p>	教職員8	A	100	57	43			
	環境整備力	<p>清掃や身の回りの整理整頓を主体的に行い、自ら学びの環境を整える態度が向上している。</p>	B	<p>◇少人数のため日替わりで清掃場所を交代し環境美化に努めたり、掃除機やモップ等で時短を図った清掃を取り組んでいる。しかしながら、教職員評価がCと低い。進んで一生懸命取り組むことが不十分な様子が見られ、全校児童が黙働・快働できる意識作りが必要である。 ◆整理整頓は、学習の効率化・身だしなみにもつながる。全教職員が環境整備で心を整えるという意識をもって清掃指導を行うとともに、帰りの会には、机やいす、整理かご、ロッカーの整頓や黒板をきれいにし、学びの環境を整えてから教室を出るようにする。</p>	教職員9	C	71	42	29	29		
		<p>目標値:教職員・児童の90%以上が肯定</p>	B	<p>◇学びの環境を整える児童の育成に努めようと教職員が意識し、指導・支援を行ったことで、児童の環境整備力が向上してきた。低学年でも、膝をついてしっかりとふき掃除ができる児童や、無駄なおしゃべりをせず、時間いっぱい掃除ができる児童が増えてきた。また、下校後の机の中や周辺などの整理整頓が習慣化してきつつある。しかし、トイレのスリッパや靴、カバンの整頓については、まだ不十分な点が見受けられる。 ◆トイレのスリッパや靴、カバンの整頓も含め、教室のロッカーや机の中、玄関の下駄箱の整頓もきちんとできるよう、全校体制で取り組んでいく。</p>	教職員9	B	86		86	14		
教職員の資質・能力の向上	教職員の資質能力の向上	<p>授業力や生徒指導力の向上を目指して、研修や自己研鑽に努めている。</p>	A	<p>◇学びの環境を整える児童の育成に努めようと教職員が意識し、指導・支援を行ったことで、児童の環境整備力が向上してきた。低学年でも、膝をついてしっかりとふき掃除ができる児童や、無駄なおしゃべりをせず、時間いっぱい掃除ができる児童が増えてきた。また、下校後の机の中や周辺などの整理整頓が習慣化してきつつある。しかし、トイレのスリッパや靴、カバンの整頓については、まだ不十分な点が見受けられる。 ◆トイレのスリッパや靴、カバンの整頓も含め、教室のロッカーや机の中、玄関の下駄箱の整頓もきちんとできるよう、全校体制で取り組んでいく。</p>	教職員10	A	100	43	57			
		<p>目標値:教職員の90%以上が肯定</p>	A	<p>◇食育推進事業や地域合同避難訓練、校区別人権・同和教育懇談会等、外部講師を活用した研修会で、より実践的な研修が行われたことがA評価につながったと考えられる。 ◆校内研修の充実と合わせて、研修会、講演会に自主的に参加したり、読書に親しんだりしながら、各自のキャリアステージに応じた能力を身に付けるための自己研鑽を行い、更なる授業力や生徒指導力の向上を図る。</p>	教職員10	A	100	29	71			
	組織力のある職場づくり	<p>あいさつ・返事・報告・連絡・相談・確認の習慣化を目指し、温かく、風通しのよい組織力ある職場づくりに努めている。</p>	B	<p>◇チーム長月の一員として、互いに助け合い、多くの事業を実施してきた。多忙な中で、報告・連絡・相談・確認が不十分な点があったことが、B評価につながったと考えられる。 ◆自分の仕事に責任とプライドを持って、取り組んでいく。ささいなことでも報告・連絡・相談・確認をし、風通しのよい職場にし、更に信頼される学校を目指していく。</p>	教職員11	B	88	25	63	12		
		<p>目標値:教職員の90%以上が肯定</p>	A	<p>◇前期の反省を生かし、教職員が意識して、あいさつ・返事・報告・連絡・相談・確認に努めたことが、A評価につながったと思われる。しかし、まだ十分とはいえない。 ◆迅速な報告・連絡・相談・確認が、多くの適切な対応につながる意識をしっかりと持ち、風通しのよい組織力のある職場にし、更に信頼される学校を目指して取り組んでいく。</p>	教職員11	A	100	43	57			

学校運営協議会委員の所見と学校の対応

1 豊かな心を育てる教育の推進について

(1)学校運営協議会委員の所見

異校種間等の交流も取り入れ、仲間意識を育てていってほしい。また、子どもだけの空間をつくらないようにし、トラブルがあれば、その機会を生かして、望ましい関わり方についてしっかりと学び合わせてほしい。あいさつについてはその意義を学び、目標を持って意欲的に取り組めるようにしていくとよいのではないかと。また、公民館だよりや回覧板を活用し、地域からも積極的なあいさつや声掛けができるようにしていきたい。

(2)学校の対応

どんな小さなことでも早期発見、早期解決をしてよりよい集団を持続させていく。あいさつについては、あいさつ集会を実施し、よりよいあいさつや返事について学ぶ機会を設け、2月はあいさつ、3月は返事について重点的に取り組み、更に「明るく丁寧なあいさつ・返事」ができるようにしていく。また、学校だよりで保護者や地域の方からの積極的なあいさつや声掛けの協力依頼をする。

2 安全・安心な学校づくりの推進について

(1)学校運営協議会委員の所見

インターネットの利用について、児童と保護者が一緒に学ぶ場を設け、安全で、正しい使い方ができるようにしてはどうか。

(2)学校の対応

各学級の実態に応じて、安全で正しい使い方を指導していく。